

(仮称)中野区産業振興方針の検討状況について

(仮称)中野区産業振興方針の策定にあたり、区内産業等に係る追加分析を行うとともに、令和4年第2回定例会で報告した「中野区産業振興ビジョンの検証および中野区産業振興方針の考え方」における「視点」に沿って今後の展開、取組内容等に関して検討を進めてきた。現在の検討状況について、下記のとおり報告する。

記

1 区内産業等に係る分析について

各種調査結果を活用し、区内産業等に係る分析を行った。

(1) 区内産業構造の分析・傾向

令和3年経済センサス活動調査より分析した。

○ 事業所の構成割合から見た傾向

「卸売業、小売業」(19.9%)が最も多く、次いで「不動産業、物品賃貸業」(15.8%)、「宿泊業、飲食サービス業」(12.5%)と続く。「卸売業、小売業」や「製造業」など割合が下がっていく産業がある一方で、「医療、福祉」のように高齢化による需要の増加に伴い、年々上がっている産業がある。

○ 都・近隣区と比較した傾向

「製造業」(2.7%)、「卸売業、小売業」(19.9%)の構成割合が都平均(それぞれ6.1%,22.1%)よりも低い。一方で、「不動産業、物品賃貸業」(15.8%)、「生活関連サービス業、娯楽業」(8.5%)、「医療、福祉」(10.2%)が都平均(それぞれ10.3%,6.9%,8.7%)よりも高い。中野区の特徴として、「不動産業、物品賃貸業」や「生活関連サービス業、娯楽業」、「医療、福祉」の事業所が多い傾向にある。これは近隣の杉並区・練馬区も共通しており、生活利便性の高い住宅都市としての地域特性を有していると言える。

一方で、中野四季の都市(まち)のまちびらきに伴う企業立地や、今後の中野駅周辺のまちづくりによりさらなる立地が見込まれることから、産業都市としての性格も含みつつあると言える。

○ 従業者数から見た傾向

従業者数も事業所と同様の傾向にあり、「卸売業、小売業」(24,682人)、「医療、福祉」(16,833人)、「宿泊業、飲食サービス業」(9,235人)への従業者が多いが、それ以外にも、「サービス業(他に分類されないもの)」(11,286人)、「情報通信業」(11,060人)、「学

術研究、専門・技術サービス業」(9,995人)と多くなっている。

## (2) 区内商業の状況

令和3年度中野区商店街業種調査および令和元年度東京都商店街実態調査より、以下の傾向が見られた。

### ○ エリア別店舗数の増減

中野区全域では令和2年度比0.4%増加した。エリア別では、鷺宮・家政・野方エリアで5.2%の増加がある一方で、中野駅周辺地域においては北口エリアが▲2.1%、南口エリアで▲5.0%の減少となった。中野駅南口エリアは、まちづくりに係る工事の影響で店舗の移転等があり、店舗数の減少につながったものと考えられる。

### ○ 業種別構成割合

中野区の商店街における業種構成は、小売業26.3%、飲食業35.5%、サービス業16.6%、その他21.6%であった。令和2年度に比較して、小売業が▲0.5%の減、飲食業が0.4%増、サービス業は▲0.3%減、その他は0.4%の増となった。

東京都全体での業種構成割合は、小売業37.3%、飲食業36.0%、サービス業13.9%、その他12.8%であり、中野区は小売業の割合が都平均より少なく、その他の割合が都平均より高い。他区との比較データは無いが、東京23区は市町村部に比較して医療施設や金融機関の支店等が多いことから、その他業種の割合が高くなっていると考えられる。

### ○ 空き店舗率

中野区全体の空き店舗率は10.9%で、令和2年度に比較して▲0.3%減少した。一方で、エリア内で11店舗以上の空き店舗がある割合は前年度比5.2%増加した。東京都の調査によると、空き店舗が埋まらない理由としては家主・大家の事情が最も高く、次いで店舗の老朽化、商店街環境の悪化(来街者の減少)となっており、空き店舗になる前の業種は飲食店である割合が高かった。

## 2 区を取り巻く情勢の変化等について

現状及び今後に予定される、主に区を取り巻く情勢、まちの変化について整理した。

### (1) 社会経済情勢の変化

新型コロナウイルス感染症の流行により、急速なデジタル化・キャッシュレス決済の進展、テレワークの普及に伴うライフスタイルや働き方の見直しが進んだ。また、原油価格・物価高騰による経済や家庭への打撃など、近年、社会経済情勢は目まぐるしく変化しており、継続した区内経済の維持・回復を後押しした施策を推進していく必要がある。一方で、長期的な視点で捉えるならば、著しく成長を遂げるICTやまちの変化など時代の動きを着実に捉え、アフターコロナを見据えた産業振興策を検討していく必要がある。

### (2) 中野駅周辺のまちづくりによるまちの変化

中野駅西側南北通路・橋上駅舎整備、中野駅新北口駅前広場の整備や、中野駅周辺各地区のまちづくりが進捗することにより、中野駅周辺は大きな変貌を遂げる。中野駅新北口駅前

エリアに新しく建設されるシンボルタワーを中心に、今後多くの事業所が区に集積することも予想される。こうした事業所を中心とした周辺産業への波及効果や、来街者が各地区を相互に回遊することにより、新たなにぎわいの創出ならびに人流が生み出されることが期待されている。

また、令和4年度に、中野駅周辺のまちの機能や価値を持続的に維持向上させ、住み、働き、訪れる人や企業等を惹きつける、まちのブランド力を創出、強化することを目的として、中野駅周辺エリアマネジメント協議会が発足した。今後、まちの将来像や実現に向けた取り組みを示すビジョンが策定される予定である。

### (3) 西武新宿線沿線連続立体交差化によるまちの変化

西武新宿線連続立体交差化事業や区画街路第4号線などの道路拡幅事業、市街地再開発事業の検討が進んでいる。この機会を捉えて、まちづくりと一体的に商店街の再生・活性化を図ることが求められている。

### (4) その他のまちの変化

都市防災不燃化促進事業、中野区無電柱化推進計画、都市計画道路の整備など、さまざまな地域で、多様なまちづくりが行われており、これらの機会を捉えた産業振興策を検討する必要がある。

## 3 方針策定に向けた視点の検討

以下のとおり項目を整理し、今後の展開、取組内容等に関して検討を進めている。

### (1) 文化・芸術、観光と産業を結び付けた振興策の展開

- ・ 文化資源と産業の結びつけによる新たな価値の創造
- ・ 魅力的な地域資源を活用した産業の活性化
- ・ 商店街と文化・芸術との連携
- ・ 観光と連動した産業振興策

### (2) まちづくりを契機とした産業振興策の展開

- ・ まちづくりと連動した商店街の活性化
- ・ 中野駅周辺整備中のにぎわいに関する取組
- ・ まちづくりによる事業者の集積に対する取組
- ・ データを活用したまちの変化に対する取組
- ・ 企業の誘致
- ・ エリアマネジメントと連動したにぎわいやネットワークの創出

- (3) 事業者のニーズに合わせた伴走型の相談体制の構築
  - ・ (仮称)中野ビジネスサポートセンターの検討
  - ・ 創業からネットワーク構築による区内定着化への支援
  - ・ 事業承継への支援
  
- (4) 商店街組織への継続的な支援と個店への支援
  - ・ 商店街のデジタル化・ICT化の推進
  - ・ 魅力的な店舗づくりを目指した個店への支援
  - ・ 商店街のにぎわい創出と事務局機能強化
  
- (5) 産学公金連携による新たな連携体制の構築・強化
  - ・ 産業、文化・芸術、シティプロモーション、都市観光、エリアマネジメントを総合的に捉えた持続的なまちの活性化

#### 4 今後のスケジュール(予定)

- 令和4年度中 …… 経済団体・学識経験者への意見聴取
- 令和5年 第2回定例会 …… 中野区産業振興方針(骨子)の報告  
～ 経済団体・学識経験者との意見交換
- 第3回定例会 …… 中野区産業振興方針(素案)の報告
- 第4回定例会 …… 中野区産業振興方針(案)の報告
- 令和6年 第1回定例会 …… 中野区産業振興方針の報告
- 3月 …… 中野区産業振興方針の策定